

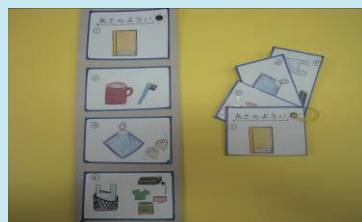
# わかり、自分でできるための支援

〔児童の姿〕

〔具体的支援〕

〔具体的な状況〕

- ・手順が覚えられない、すぐに忘れる子どもには手順表や絵カードなど視覚支援を行う。



①

- ・気が散りやすい子どもには、まとめてできるような工夫をする。



②

- ・子どもの視界を遮られる位置に保育士がついて見守ったり、子どもがロッカーや壁の方を向いて活動できるようにする。

- ・絵カードを見て行動と結びつけて一連の行動をしている。
- ・数字に興味がある子どもは絵カードに番号をつけると意識して行動している。



POINT

**覚えられない、忘れる、など記憶の保持が苦手な子どもや周りの環境に気が散る子どもは、絵カードを使用することで手順がわかり、次の活動や全体の見通しをもつことができます。活動が終わったカードは裏返す、めくるなどします。**

- ・活動に集中しやすくなり、登降所の準備が少しずつ自分でできるようになってくる。



POINT

**多動性のある子どもは、周りに気が散りやすいため動線を整理し、周りの刺激が入りにくいよう視界を遮ることで活動がスムーズになります。**

登降所の準備がスムーズにできない。